

富山県射水市におけるへちまSDGs活動の推進： 地方発グローバルSDGs活動の展開



へちま畑の視察 収穫方法などの学習



へちまの現物を手に取り、どのような製品が考案できるかを議論

#SDGs #へちま

目的

以下に示すようなSDGs推進の目的に加え、地域特産物であるへちまを使った製品の販路拡大を図ることにより、農村の地域振興を図る



へちま産業、社長の瀧田秀成氏と、メンバー全員で集合写真

活動の概要

- **主な連携先**
池田葵(商学部・3回生)、山本莉子(商学部・3回生)、三品涼帆(人間健康学部・3回生) 瀧田秀成氏(へちま産業・社長)
- **活動地域**
富山県射水市、大阪府大阪市
- **活動期間**
2021年～継続中
- **活動資金**
地域連携活動に対する補助事業

連携にいたる経緯

商学部・小井川研究室では、身近なアイテムを使ったSDGsビジネスモデルの構築を模索している。自然に還る有機的特性を持つへちまのSDGs親和性と有効性に着目し、へちま産業との産学連携を打診し、実際に富山県射水市の加工場を訪れ、連携に至った。



食用へちま栽培と、そのレシピを議論



へちま水の貯水タンクの視察
実際の貯水方法と、どれくらいの在庫があるのか、回転率などを確認

活動内容

小井川研究室は、SDGsビジネスモデル構築の一つとして、へちまの有用性と将来性に着目した。かつてへちまは、たわしとして日本の多くの家庭で使われていたのだが、安価で簡便なスポンジたわしに駆逐されてしまった。しかしながら昨今、スポンジたわしから出るマイクロプラスチック、および使用後のスポンジが海洋汚染の原因となっていることが指摘され、有機的特性により自然に還る性質を持つへちまのSDGs的優位性が改めて着目されることになった。そこで、へちま栽培、加工で著名なへちま産業に連携を打診し、へちまを通じたSDGs活動の可能性を共に模索することとなった。具体的な活動内容は以下の通りである。

(1) へちまを使ったSDGs新商品の開発

へちま利用SDGs商品の開発、具体的には、へちま水をベースとした若者向け化粧水の開発を進めた。へちま産業で既に販売しているオーガニックへちま水を若者にアレンジして製品化する戦略を議論した。

(2) へちま商品の販売拡大

へちまの有用性を若者により訴求するために、TiktokやインスタグラムなどSNSを活用したマーケティング戦略を提案した。

活動の成果

- へちま水をベースとした若者向け化粧水の開発
- へちま関連アイテム向け、SNS(Tiktokなど)を活用したマーケティング

今後の課題・目標・展開の可能性

- へちま関連アイテム(へちमतわし、へちま石鹸など)の販売拡大支援
- 若者向けへちま化粧水の商品開発と、SNSマーケティング
- 技能実習生の招聘(へちま栽培に従事する労働力の不足を補うため)

商学部 教授 小井川 広志 Oikawa Hiroshi



途上国(主にアジア地域)の経済発展の問題に関心を持つ。民間の企業活動が途上国貧困層の社会経済問題の解決につながるようなビジネスモデルの構築を模索している。



連携先からの一言

若者の感性を活かし、SNSなどの新しいツールでへちまの良い点を広くアピールしてもらえているので、理想的な産学連携になっていると思います。

(へちま産業 社長 瀧田秀成氏)